

令和3年度第1回大船渡市立博物館協議会 議事録

開催日時：令和3年6月4日（金）10：00～11：20

開催場所：大船渡市立博物館 多目的ホール

出席者：【委員6名】

蒲生正光、熊谷美知子、小松英子、佐藤真優子、西村文利、中嶋敬治

【事務局4名】

教育長 小松伸也、教育次長 遠藤和枝、博物館長 長澤敏之、
館長補佐 遠藤高雄

1 開 会

長澤館長の司会で開会。6人の委員の出席で協議会が成立していることを報告。

2 挨拶

小松教育長

3 大船渡市立博物館協議会会長の選任等について

大船渡市立博物館管理運営規則第9条の規定により、協議会会長の選任を行うこととし、館長が会長の互選について委員の意見を求めた。

（委員）

事務局案があれば示してほしい。（他の委員も同意）

（館長）

事務局では西村委員に会長をお願いしたいと考えている。よろしいか。

（各委員）

はい。

（館長）

拍手で承認をお願いする。（各委員の拍手）それでは西村委員に会長をお願いする。会長は職務代理者を指名してください。

（西村会長）

中嶋委員をお願いしたい。

（中嶋委員）

了解しました。

（館長）

それでは職務代理者は中嶋委員に決定します。

ここからは、大船渡市立博物館管理運営規則第9条第2項の規定により、西村会長が議長となり進行。

4 報 告

- (1) 令和2年度大船渡市立博物館事業実績について
事務局から昨年度の事業実績について説明した。

(委員)

例年と比べ、修学旅行などで地区外の学校の利用が多かったとのことだが、どのような理由で当館が選ばれたのか把握しているか。

(事務局)

修学旅行で利用したのは内陸の学校であったが、コロナ禍で行先が県内となり、修学旅行としては行ったことのない沿岸地区を旅行するにあたって、津波防災関連施設とジオパークの観点から選ばれたものと捉えている。

(委員)

これを良い機会として、内陸部の学校の利用拡大につなげられたらと感じた。

(委員)

生涯学習相談というのは、直接来館するほかに電話・メール等でも受け付けているのか。

(事務局)

そうである。実際、石を見てほしくて来たとか、庭に咲いている花が知りたいとメールで写真が届いたり、電話による照会があったりと、様々な形での相談がある。

(委員)

実は、自分も知人に頼まれ石を見てもらいに来たことがあるのだが、一般の方は博物館に気軽に聞きに行ってもいいものか分からず、敷居が高いと感じているところがあると思う。

このように学習相談で活用されるのは素晴らしいことなので、博物館を身近に感じられるよう、広報等でもっとPRしたほうが良い。

(事務局)

わかりました。

(委員)

調査研究事業で、旧吉浜中学校郷土資料室に調査に行ったようだが、旧越喜来中学校、旧日頃市学校にもそれぞれ資料があると思う。例えば、旧日頃市中学校には化石展示室があるが、そちらの調査はこれまでにやったことがあるのか。

(事務局)

旧日頃市中学校は、空き校舎利活用の検討として下見に行った際に、化石資料の確認はしている。博物館としても貴重な資料として捉えている。

(委員)

すごく素晴らしい資料なので、そのままにしておくのはもったいないので是非調査をお願いしたい。

(事務局)

わかりました。

5 協 議

- (1) 令和3年度大船渡市立博物館事業計画について
事務局から今年度の事業計画について説明した。

(委員)

土器製作会の定員が昨年度の参加者に比べ、少ないように感じたのだが。

(事務局)

昨年度の参加者数は、形づくり、野焼きの延人数で表している。そのほかにスポーツ少年団へ講師を派遣して、土器製作会とは別枠で前日に講座を開催した分もあり、大人数に感じるところがある。

今年度の土器製作会自体の定員としては、コロナ対策を加味した24人で予定している。

(委員)

二点質問がある。

一つはジオパークの件で、今年度はこれまで以上に動きがあるのだなと理解したところである。以前から博物館とジオパーク推進協議会の事業の住み分け、役割分担が必要と言ってきたのだが、動きがなかなか見えてこない。未だジオサイトに看板がなく、関谷洞窟にも教育委員会が前に立てたものがあるだけで残念に感じている。博物館からジオパーク推進協議会に対し、協議会事業としてジオサイト看板の整備を進めるよう提言してほしい。

もう一つは博物館のネットワークについてである。陸前高田市と住田町にもそれぞれ博物館や民俗資料館があるので、気仙地域で連携を図って、みんなが関心を持って見に来てくれるような仕組みづくりを考えていく必要があるのではないかと。

(事務局)

今年度からジオパークかわらばんは、県のジオパーク推進協議会の事業として実施することになった。これまでは市内の小学生が対象であったが、気仙2市1町の小学生が対象になったということで、それぞれの教育委員会をお願いに行ったほか、陸前高田市立博物館の学芸員や住田町の文化財担当にも説明し、とても良い取組だということで、夏休みに子供たちに取り組みさせることになった。

陸前高田市立博物館は現在、建設中であるが、当館の学芸員とタイアップ出来ないかということで、岩石の研磨など協力できることを連携しながら行っている。当館には人文系と自然系の学芸員がいるが、陸前高田には水生生物系の学芸員がいるので、お互いの長所を生かして交流できたらと考えている。残念ながら住田町には学芸員がいないので連携が取りにくい状況だが、いずれ3館

でお互いの良いところを提供し合う取組みを開始しつつあるところである。

(委員)

学芸員は全体的に少ない状況で、特に植物の学芸員はほとんどいない。県内でも県立博物館にいただけである。そういうこともあって、博物館の連携が必要な時代であるので、お互いの足りないところを補い合って良いものを作る方向に進めていただきたい。

(事務局)

ジオパークの推進団体として当地域には、三陸ジオパークけせん地域協議会があるが、沿岸北部と比べ当地域の事業がなかなか進まない理由は、復興事業を優先してきたからである。現在、やれることから始めようと、事務局である観光交流推進室を中心に取り組んでいるところである。教育委員会としても今日出された意見を伝えるとともに、どのような連携が図っていけるか検討していきたい。

(委員)

博物館の敷居が高いということではないが、市民の認知度は低いのだと思う。その辺りを上手く広報する必要がある。

県立博物館では市民向けに日曜講座というものを開催しており、かなりの参加者がいる。こちらの博物館でそこまで出来るか分からないが、市民との距離を縮めるような取組みを考えていく必要があるのではないか。

(委員)

教育普及事業の自然観察は、今年は地質観察会だが、来年は何か。年毎に変わっていたと思っていたが。

(事務局)

3年サイクルで変わり、来年は水生生物である。

(委員)

前回の水生生物の時は、学校行事になっているものに参加したのだが、とても参加者に好評であった。ただ、次の観察会が3年先だということで、主人が水生生物系の学芸員資格を持っていることから、直接学校から講師依頼が来て授業を行ったことがある。なので、前回の観察会を知っている人が結構いるのだと思う。

海のまちに住んでいながら、子供たちはあまり海の生き物のことを知らないなので、先生たちもそういう機会を持ちたいと考えているのだと思う。

やはり、生物を1年に1回の開催では難しいのか。地質と生物をどちらも開催するとか出来ないか。

(事務局)

学芸員が二人しかおらず、展示等ほかの業務もあり、さらに最近はジオパーク関係の依頼もあることから、年に1回が限度ではないか。

(委員)

水生生物の観察会はとても人気がある。

(事務局)

震災前は1年で3種類全部をやっていたが、震災後は国立科学博物館などの支援事業があって、そちらへの対応など余力もないことから1年に1回ずつ3年サイクルでやろうということになったのが始まりである。

また、震災から10年経過したので、事業の見直しを考えていたところにコロナ禍となったところである。

支援事業の中で継続させる事業の選択や、夏に行事が集中すること、学芸員の業務量の調整など、今の意見も取り入れながら事業全体の見直しが必要だと感じている。

(委員)

震災後に支援で入ってきた事業を続けるのは、博物館の職員数が限られていることから難しいという話は数年前から承知している。したがって、残念ながら出来なくなる事業もあることも理解している。

先程、市民との距離を縮める話が出たが、私もこれは必要だと感じている。例えばシアターだが、見ると素晴らしい映像で、自分たちがいかにすごい所に住んでいるか実感できる。ここに住んでいる人たちは、意外と身近な地域の良さに気づいていないと常々思っている。空の青さとか海の色などは、ここに見に来て改めて実感できた。

博物館にシアターがあることは、あまり知られていないので、学生などに見てもらえれば良いなと思っている。もっと情報発信したほうが良い。

(事務局)

市広報で文化財・博物館のことを掲載する予定なのでご注目いただきたい。

(議長)

委員の皆様からいただいた意見を、今後の博物館事業に生かしていただくようお願いする。

6 その他

委員からは特に発言はなく、事務局から常設展示改修の考え方等について説明をした。

7 閉会

長澤館長が閉会を宣言。午前11時20分終了。